

2016 瀋陽師範大学短期プログラム 報告書

函館校 地域協働専攻 1年 神内瑚伯

私は2月29日から3月12日までの約二週間、中国の瀋陽市にある瀋陽師範大学へ短期研修に行ってきました。私は今回、初めて海外へ行きました。最初は異文化の中での生活や言語の壁に対してもものすごく不安を抱いていました。しかし実際に生活してみると、最終日には「まだ帰りたくない」と思えるほど、充実して楽しい日々を過ごすことができました。この報告書では、3つの項目に分けて報告していきたいと思います。

1.瀋陽師範大学での授業

初日に中国語での会話のテストがあり、それによってクラス分けされました。レベル別にクラス分けをしていただけるので、語学に自信がなくても基礎から学べるので留学について語学力に対する不安を持つ必要はないと思います。授業は、朝の8時20分から11時55分までで、リスニング・リーディング・スピーキングの分野に分けて行われました。分野ごとに先生も分けられていたので、3人の先生にお世話になりました。先生はジェスチャーなどで、伝わるように分かりやすく教えてくれました。授業の時間のほとんどが発音の練習でずっと声を出しているのととても喉が渇きます。クラスには、様々な国から来た留学生がいるので、基本的にクラスメイトとの会話は英語で行われ、先生は英語で中国語の授業を行っていました。日が経つにつれて学んだ中国語が増えていくので、クラスメイトと中国語で会話できる数が増えていくことが勉強していてとても楽しいし、モチベーションが上がります。最初の授業で衝撃的だったのは、日本で受けていた中国語の授業で学んだ発音や4声とは全く異なるという所でした。また、日本での授業よりもクラスの人数がはるかに少ないので、一人一人発音させてしっかり理解しているかを毎回確認してくれるので、間違っていればその場で改善して次のステップへいけるので語学を学ぶには最適な環境だったと思います。

他にも、中国の文化を学ぶ授業が開講されており、茶道・太極拳・中国楽器演奏の鑑賞がありました。中国の茶道は日本のものとは異なり、抹茶ではなく烏龍茶など多くの方が普段から飲んでいるお茶を使って行われます。日本人もよくお茶を飲むのでとても親しみやすい授業でした。太極拳は予想以上に難しかったです。講師の方が日本語を話すことができたので一つ一つの動作の意味や使い方を詳しくできることができてとても楽しい授業でした。中国の楽器演奏の鑑賞は、それぞれの楽器の紹介もあり、鑑賞だけで終了ではなく最後に楽器を実際に触って弾かせてくれる時間を設けていただきました。

中国での中国語や中国文化の授業は、日本では受けられないようなとても貴重な授業でした。1つ1つの授業が新鮮で、興味深い内容ばかりでした。



二週間授業を受けた教室



茶道の授業の様子

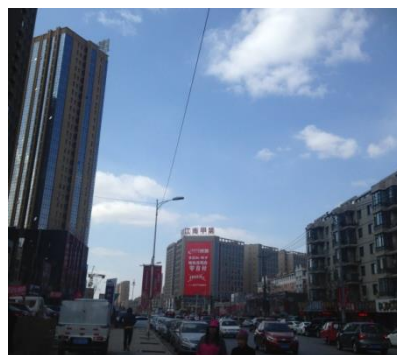
2.瀋陽での生活

瀋陽の気候は日本よりも乾燥しており、マスクをしていないと喉が乾燥してしまうほどです。また、日本の3月上旬の気温よりもとても寒かったです。食文化の違いについては、留学前は食事が合わなくて苦労するのではないかと考えていたのですが実際は全くそんなことはなく美味しく食事をすることができましたし、価格もすごく安いです。生活していて大変だと感じたのは、トイレにトイレットペーパーを流せない所です。日本の様式に慣れてしまっていたので、何度も一緒に流してしまいそうになりました。このような場面では、日本でどれだけ便利な生活を送っていたかを実感することができました。そして、日本語が通じない環境で生活することに最初はとても抵抗があり必要最低限のことしか人と話さないようにしていました。しかし、それでは中国語の上達にはつながりません。語学に自信がなくても積極的にいろんな国の人と話した方がさらに二週間を楽しむことができますと思います。また、普段コンビニやスーパーで買い物をしたり食事をとるときに、メニューに書かれている言葉がわからなかったり、店員さんになんて言って注文すればいいのかがわからなくてとても困りましたが筆談したり、日が経つにつれて覚えたフレーズを使って会話をすることができるようになります。最初から困らないようにするためには、旅行用のフレーズ集が書いてある本や電子辞書を持ち歩くことをお勧めします。

他には瀋陽師範大学の日本語学科の学生達との交流がとても多かったです。日本語学科の学生は本当に日本語が流暢に話せて、自分の語学力とは比べ物にならないものだと思いますし、多くの努力を積み重ねてきた姿が見られました。1ヶ月後に日本へ留学に行くという学生は、語学留学が必要ないのではな

いかと思うほど日本語が上手でした。留学中に何度も連絡を取り合っ、授業が休みの日には一緒にお土産が買えるようなお店や映画にも行きました。

瀋陽での生活は自分が留学前にイメージしていたものよりもはるかに充実した2週間でした。



中国での食事

瀋陽の街

3.留学の成果

今回の留学での一番の成果は中国語が留学前よりも身に付いたと実感できたことです。2週間、中国語に囲まれた生活を送っていたので、日本で学んでいるよりもはるかに身に付くスピードははやいと思いました。最初はお店に入って店員さんに値段を聞くフレーズすらわかりませんでした。日を重ねていく度に、言える言葉も聞き取れる言葉も増えていきます。また、場面によって使えるネイティブの言い回しも学べるのが一番のメリットだと感じました。現地で話されている言葉と日本でテキストを使って勉強をするときに使っている言葉は微妙に違っていたりするので、現地に行かないと学べないことの一つだと思います。語学に関わらず、海外へ行くことはとても良いことだと感じた留学にもなりました。自分が抱いていた国のイメージは実際に肌で体験することで全く違うものであったりします。その時の感動は忘れないものであるし、一生に一度は味わうべきものだと思います。



修了式での写真



日本語学科の学生達との写真